

秋期のクマ出没に注意してください

令和7(2025)年度の堅果類の結実は概ね良好でした。令和7(2025)年度のクマの出没件数は令和6(2024)年度の8割程度、クマの有害捕獲頭数も令和6(2024)年度の8割程度で推移します。クマによる人身事故は、令和6(2024)年度は2件発生し令和7(2025)年度は現時点で3件発生しております。

クマとの遭遇を避けるためには、生ゴミの適切な処理や収穫予定の無い柿・栗などの除去、人家周辺のヤブの刈払などクマを里地に近づけない対策が引き続き必要ですので、以下の点に留意し、適切に対処してください。

＜クマを里地周辺に寄せ付けないために＞

1 誘引物の除去

- ・ 収穫予定の無い柿や栗は伐採するか果実を除去しておく。
- ・ 生ゴミや廃棄野菜を庭や裏山に捨てない。
- ・ 犬や猫のエサ等を夜間は建物内に入れておく。

2 クマに出会わない環境づくり

- ・ 家屋周辺や歩道脇などのヤブを刈り払い、見通しを良くする。
- ・ 住宅敷地に夜間照明を設置するなど、クマを発見しやすくする。
- ・ 早朝や夕方は、ヤブや果樹のある場所に近づかない。

3 イノシシ用箱わなの運用

- ・ クマの錯誤捕獲を防止するため、箱わな上部に 30cm 四方の脱出口を設ける。
- ・ クマを誘引しやすいエサ（トウモロコシ・リンゴなど）は使わない。
- ・ 箱わな周辺にクマの痕跡があったら運用を停止する等、従事者の安全確保に努める。

＜山林内などでクマに出会わないために＞

- ・ 音の出るもの（鈴やラジオ）を携帯し、人の存在をクマに知らせる。
- ・ クマの新しい糞や足跡などを見つけたら引き返す。
- ・ 雨や風のある日や沢沿いでは人が出す音がクマに聞こえにくいので、周囲に気を配る。
- ・ 弁当の残りや容器・ペットボトル・缶などのゴミは必ず持ち帰る。

＜出会ってしまったら＞

- ・ 静かに、走らず、ゆっくり後退してクマから離れ、絶対に近づかない。



お問合せ先

栃木県環境森林部自然環境課

野生生物・鳥獣対策班

電話：028-623-3261